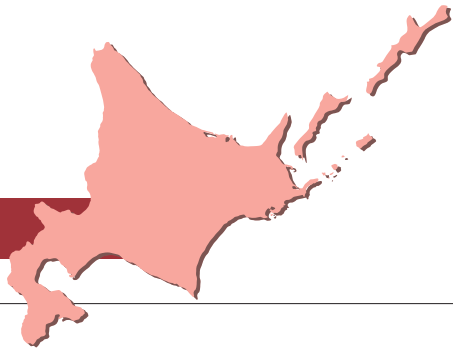
7月の道内景況　情報連絡員レポート

一転して売上高が悪化　改善傾向に腰折れの兆し

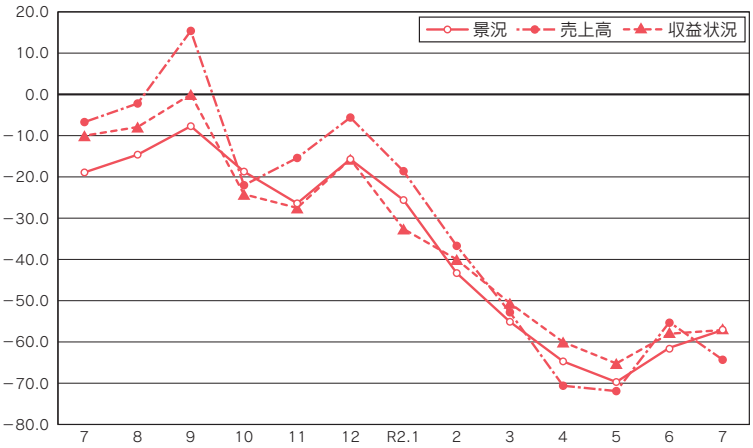


概　況

主要DIの推移では、「景況」は前月に引き続き改善したが、「収益状況」はほぼ横這い、「売上高」は再び悪化に転じた。

業種別に見た前月との比較では、製造業は「景況」「収益状況」「資金繰り」で若干改善したものの、「売上高」「販売価格」「取引条件」「雇用人員」がわずかに悪化した。非製造業では「景況」「販売価格」を除く全ての項目で落ち込みが見られ、製造業、非製造業ともにマイナス域での推移となった。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
業界の景況	△61.4	△57.1	4.2 ↗	△59.4	△53.3	6.0 ↗	△62.5	△59.3	3.2 ↗
売上高	△55.2	△64.3	△9.1 ↘	△53.1	△53.3	△0.2 ↘	△56.4	△70.4	△14.0 ↘
収益状況	△58.0	△57.1	0.8 ↗	△53.1	△43.3	9.8 ↗	△60.7	△64.8	△4.1 ↘
販売価格	△12.5	△11.9	0.6 ↗	△15.6	△16.7	△1.0 ↘	△10.7	△9.3	1.5 ↗
取引条件	△19.3	△22.6	△3.3 ↘	△15.6	△16.7	△1.0 ↘	△21.4	△25.9	△4.5 ↘
資金繰り	△33.0	△31.0	2.0 ↗	△40.6	△30.0	10.6 ↗	△28.6	△31.5	△2.9 ↘
雇用人員	△15.9	△16.7	△0.8 ↘	△9.4	△10.0	△0.6 ↘	△19.6	△20.4	△0.7 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

・観光地での需要の減少に加えて贈答品需要も弱い。（水産食料品／全道）
・量販店の売上は前年同月比 10%増。業務店は地域差が大きく、地方は 2 ～ 3 割減、札幌等中心部では 6 ～ 7 割減と大幅に落ち込み、回復の兆しが見えない。（めん類／全道）
・6 月単月の出荷量は味噌・醤油とも前年比減。味噌よりも醤油の落ち込みが大きい。新型コロナウイルスの影響で、地方の地場産業等と密接に関係している（業務用取扱い比率の高い）企業は、特に厳しい状況にある。（味噌・醤油／全道）
・天候に恵まれなかったことに加え、夏祭り等イベントの中止や食品スーパーでの売上が例年通りの水準に落ち着いた点が響き、売上高は減少に転じた。（飲料／全道）
・製材市況は、カラマツ、エゾ・トドマツいずれも弱保合。原木市況は、カラマツは保合、エゾ・トドマツは弱保合。カラマツ、エゾ・トドマツ原木の在庫は先月同様、非常に潤沢だが、梱包材やパレットなどの製材受注がなく荷動きは非常に悪い。原木価格は弱含み。製品受注については、DIY 用の製材受注が旺盛な模様。桟木については動きがない。（一般製材／全道）
・物の動きは依然停滞基調にあり、物流資材となる木材の動きも同様に悪い。（一般製材／中川郡）
・各種イベント等の自粛に伴う売上減が見受けられる。（印刷・同関連業印刷／全道）
・7 月の生コン出荷量は前年同月比 101.8%の約 368 千 m^3。地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は 29 分会（協組）中 13 分会（協組）。前年同月比で増加したのは千歳地区、苫小牧、南北海道など。一方、減少したのは札幌、釧路、北東十勝などだった。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・当初予定していた公共事業のうち、緊急性のない事業が発注延期になった。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・大手・中堅ゼネコンからのガラス・建具の見積依頼は入り始めているが、極僅かであり、売上面ではこの先も厳しい状況が続くと思われる。自粛により工事延期となった現場が発生しており、価格競争の激化が懸念される。雇用調整のため従業員を交代で休ませる組合員が出ている。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・新型コロナウイルスによる受注減は緩和されつつあるが、未だ前年同月を大きく下回っている。自動車、産業機械、建設機械向けでは回復の兆しが見える一方、公共材は微減。生産調整で雇用調整助成金を受給している会社も数社見受けられる。（銑鉄鋳物／全道）
・新型コロナウイルス感染の懸念から、市や都道府県をまたぐような本格的な営業活動の再開には至っておらず、先行き不透明である。（金属機械工作／全道）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・外出自粛解除により内食化傾向が緩んだためか、特需となっていたスーパー等の伸びが落ち着き、売上はやや厳しいものとなった。節約志向に加え、観光関連の回復が見えないことで、業界をめぐる情勢は一層厳しさを増している。（菓子／全道）
・新型コロナウイルスの影響で荷動きが鈍くなっている。価格も弱含み傾向。（木材／全道）
・売上高は対前年同月比 102.3%。客足が戻りつつあり、微増となった。（野菜・果実／札幌）
・先月同様、新型コロナウイルスの影響で外国人観光客の来店は皆無、国内ツアーもほぼ見受けられなかった。7 月の連休時は久しぶりの賑わいを取り戻したが、依然として平日は厳しい状況が続いている。（鮮魚／釧路）
・一時期、エアコン利用等によりガソリンの販売量は大幅に増えたが、石油製品全体では、消費者の節約基調が変わっていないこともあり、前年同月比減となっている。節電 PR 等が拍車をかけ、消費者の節約意識は一層活発となっており、経営環境は依然厳しい状況が続いている。原油価格や為替の影響等もあり、仕入れ価格が大幅に変動する状況も続いたが、競争環境や消費者意識を考慮し、値上げまで踏み切れない販売事業者も多く散見される。掛売り市場の顧客獲得競争も一段と激しくなってきており、掛け売り市況の波乱含みは今後も予想以上の勢いで進むものと思慮される。（燃料／全道）
・新型コロナウイルスの影響で製品の入荷に遅れが生じている。一部では事業決定の遅れにより納期がずれ込んでいるようだ。（農業用機械器具／全道）
・感染の再拡大に伴って市場は低迷。卸売業界では売上減少、在庫の圧縮、収益の低下傾向が強まり、パートを始めとした人員削減の動きが広まっている。一方、外出自粛のため家庭内消費が増加しており、スーパー等が取り扱う一般消費者向け生活雑貨、酒類、DIY 商品等は好調。業務用は苦戦している。（各種商品／札幌）
・7 月の 4 連休は食堂では行列が出来るなど例年の GW のような活況が見られたが、物販店では消費が伸び悩み、依然として厳しい状況は続いている。（各種商品／函館）
・新型コロナウイルスの影響は大きく、ホテル・観光・飲食店の売上は前年比 30%程度に留まった。キャッシュレス消費者還元事業の終了に伴う駆け込み需要の反動減はあったが、特別定額給付金の効果からか大型家電等の需要増による家電量販店の売上増加に加え、ホームセンター・ドラッグストア・食料品の売上が好調で、大幅な減少とはならなかった。依然として飲食店・観光業の売上は減少している。収益では取引条件の低減化とキャッシングの大幅な減少により悪化した。（各種商品／旭川）
・大型店は衣料品の持ち直しもあり、前年比 101.7%の 16 億 2400 万と 9 ヶ月ぶりに前年を上回ったが、スーパー各社は 31 億 6000 万円と対前年比 97.7%に留まった。（各種商品／帯広）
・半数以上の組合員から、新型コロナウイルスの影響で依然として客足が回復せず、現状が長引けば極めて厳しいとの声が聞かれた。今月は取扱高全体で前年を下回った。部門別では、前月キャッシュレス消費者還元事業の終了に伴う駆け込み需要もあって前年を上回ったカード部門も前年を下回り、その他全部門で前年を下回る厳しい結果となった。（各種商品／釧路）
・キャッシュレス消費者還元事業が終了したことで 7 月の売上は更に落ち込み、最終的に 7%減となった。（各種商品／斜里）
・仕入価格、販売価格ともに変化はないが、店頭販売が著しく悪化している。中元用商品の動きは平年並みと推測されるが、店頭販売の落ち込みに引きずられ収益状況は芳しくない。（各種商品／小樽）
・連休中は道内観光客が車で道内各地を訪れる動きが見られたが、本州からの観光客は航空便の休止などで皆無の状態が続き、前月比で若干売上は回復したものの業界全体として大変苦しい経営状況が続いている。（燃料小売業／稚内）
・7 月の卸値は若干の値上げ改定で推移、小売店の販売価格も上方修正で推移したが、月末に原油価格の値上げがあり、8 月に入ってから影響が表れると思われる。収支状況では従来と同じく量販店の安値攻勢により厳しい利益口銭に圧縮、さらに新型コロナウイルスの影響で販売量が回復せず収益も続落している。（燃料小売業／旭川）
・小売は昨年並みで推移した。新型コロナウイルスの影響で新車の納期が遅れ、下取り車等の発生に影響が生じており、商品車の仕入れが困難との声が聞かれる。（中古自動車／札幌）
・特別定額給付金で自転車を購入する動きが多く見受けられたが、地域差も激しく、地方では苦戦が続いてる。（自転車・自動車／全道）
・地元百貨店の 6 月売上高は前年同月比 5.7%減の 3 億 9,258 万円。キャッシュレス消費者還元事業の駆け込み需要で減少幅は一桁となった。市内大型店 5 店の 6 月売上高は前年同月比 1.7%増の 16 億 2,400 万円と 9 ヶ月ぶりに前年を上回った。スーパー 3 社の 6 月売上高は前年同月比 2.3%減で 31 億 6,000 万円。7 月共通駐車券の利用は前年同月比 69.5%、買物共通バス券は前年同月比 63.3%に減少。（商店街／帯広）
・7 月の連休を中心に宿泊者数は前月よりも増加したが、前年比では各館 2 ～ 4 割ほどの宿泊実績に留まった。7 月 1 日から開始した音更町宿泊助成の利用が思わしくない。GOTO トラベルは内容が分かりにくい等利用者への説明に苦慮している。各館の集客や売上の回復には未だ時間がかかる。（旅館／音更）
・新型コロナウイルスの影響でシステム開発の発注元である首都圏大手企業の業績が大きく落ち込み、目先のシステム投資が見直され、システム開発案件の中断、延期が発生している。そのためシステム開発を受託する道内の中小 IT 企業の第 2 四半期以降の収益悪化は確実な状況。収益悪化により道内中小 IT 企業の経営基盤の脆弱さが露呈し、今後、発注元のシステム開発投資が回復しない限り、その影響が運転資金の枯渇へとつながることが懸念されている。今後、新型コロナウイルスを契機に道内中小 IT 企業はテレワークによる在宅勤務での業務遂行を推進して働き方改革を進める動きが活発化しそうだが、セキュリティ対策の確保や使用回線の高容量化、専用 PC の購入等、高額な設備投資が足かせとなって、今のところ、大々的に取り組むことができていない。また、マネジメント上の時間管理の難しさや公正な評価への不安、上司・同僚とのコミュニケーション不足等の指摘されている懸念を払拭することも改善すべき課題となっている。（ソフトウェア／全道）

非製造業（建設・運輸業）

・7 月の業況として、少しずつではあるが工事の案件が動き出しているように感じられる。公共工事の発注量は例年通りの量が確保されている。民間工事においては、建築関係の業者を始め動き出しており、関連業者に対しての見積り依頼も増えてきている。反面、今まで以上に他社との競合の中で受注していくことが求められ、売上を上げ利益を出すためには企業としての更なる自助努力が必要になってくると考えられる。（電気工事／全道）
・新型コロナウイルスの影響が長期化するなかで景気減退による設備投資の中止が散見され、今後のさらなる建設需要・工事引き合いの減少が懸念される。（左官工事／全道）
・7 月末に当初発注予定になかった工事の発注が決定し、昨年度より受注高が上回る可能性がある。例年、合併浄化槽設置工事が夏までに数本発注されているが、今年度は発注情報がいまだにない状況。（管工事／名寄）
・弁当配送について、配送日数は平常に戻ったものの数量が回復していない。レストラン、百貨店へ卸している野菜問屋は外注を減らし自社社員で配送しているため、4 月から売上がゼロである。共同受注、共同配車はスポット、引越が落ち込む一方、宅配は順調に売上を維持しているが、全体としては 7%ほどの売上減少となった。（一般貨物自動車運送／全道）
・農産物の生育はおおむね良好。本州の大雨の影響で市況も良く、出荷状況は順調だが、新型コロナウイルスの影響で消費は低迷している。建設機械関連についても工期が再開しつつあり、前月比で多少上向いてきている。飲料関係は、気温の低さと新型コロナウイルスの影響を受け荷動きは悪い。貸切バスの利用は 3 月以降ほとんどなく、非常に厳しい状況にある。（一般貨物自動車運送／石狩）
・新型コロナウイルスの影響で全体的な悪化傾向にある。（一般貨物自動車運送／小樽）
・売上高は前年同月比 21.3%減。乗務員数は前年同月比 7.0%減。6 月分チケット取扱高は前年同月比 33.6%減。（一般乗用旅客／旭川）